



佐藤 さとら

未雲 みくも

スペースチャイナ

代表取締役

かつて沖縄の人々にとつて外国人といえば、アメリカ人であった。基地のある中部はもちろん那覇の町にもアメリカ人の姿があった。しかし、ここ最近の様相はだいぶ変わってきている。私たちと同じ肌色をした中国系の観光客をショッピングセンターやレストラン、観光地等でよく見かけるようになった。

中国は13億人の人口と56の民族を有する国で人口の9割が漢民族、残りの1割は少数民族である。日本に比べて国土が広く、人口も多く民族も多様である。その中国の人々が、9年前のビザ発給と今年7月の個人ビザの解禁により、日本への団体および個人旅行ができるようになったのである。現在日本に旅行ができる中国人は、一定の年収のある富裕層のみである。経済の急成長を受けて中国の富裕層は8千万人に達していると言われており、その半数が2000年から04年までの約4年間という短期間の

南風

中国人がやって来た

うちに財を成した45歳以下
の比較的若い世代である。
彼らは日本ブランドや日
本式のサービスを好み、メー
ド・イン・ジャパンや高級
ブランドには金を惜しまな
いと言われている。また、
中国大陸にはない海やリゾ
ートウェディングに憧れ
ているということも聞く。

3年前、リゾートでのリ
フレッシュを求め中国の海
南島に700万人の入域客
があった。昨年は1500
万人が訪れたという。観光
新時代に突入している今ま
さに、観光立県を目指す沖
縄にとって、中国人観光客
歓迎のメッセージを発信す
る絶好のチャンスである。

大交易時代、沖縄は中国
と密接な交流を図り、経済
的にも栄えていた。今再
び、基地の島でも南海の孤
島でもない、南の楽園沖縄
を中国にアピールし、中国
の人々を迎え入れる時が到
来したと言えよう。

中国と沖縄の架け橋にな
る時が来たと、私は心踊る
思いである。